

機関番号：25403
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520649
 研究課題名（和文） 米国の放射能兵器開発と原爆傷害調査委員会（ABCC）収集情報の利用に関する分析
 研究課題名（英文） The Use of Information Gathered at the ABCC to Design Plans for Radiological Warfare and for Troop Participation in Nuclear Tests in the United States
 研究代表者
 ロバート ジェイコブス（Robert Jacobs）
 広島市立大学・広島平和研究所・准教授
 研究者番号：60423969

研究成果の概要（和文）：この研究の主要な成果は、各地での資料収集や調査活動により、原爆傷害調査委員会（ABCC）の調査・研究と米国の核実験や核戦争計画との間に多くの関連づけが可能となった点である。特に ABCC による原爆被爆者の放射線被曝線量を正確に再評価する活動は、被曝線量と健康被害との相関関係を探るものであり、データの多くは、米国で軍事目的に利用された。旧ソ連との戦争において、核兵器を使用し被曝した場合の米軍の戦闘継続能力を推定する目的に利用されたのも、その一例である。

研究成果の概要（英文）：The primary result of this research was to establish many links with the work being done at the ABCC, nuclear weapon testing, and preparations for nuclear war fighting. Much of this was focused on the Dose Reconstruction project at the ABCC. This project attempted to establish the exact dose of radiation received by each individual hibakusha. The purpose of this project was to be able to determine exact correlations between exposure levels and subsequent health impacts. There were many intended uses of this data. One was to plan for the “re-emergence” of a post nuclear war United States. But another key use was to plan for the battlefield use of nuclear weapons with the Soviet Union, and to be able to determine the ability of US troops exposed to radiation to continue to fight.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2008年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 2009年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2010年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,900,000 | 870,000 | 3,770,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：南北アメリカ史、米国軍事史

1. 研究開始当初の背景

この研究は、原爆傷害調査委員会（ABCC）の調査活動と、米国による核実験や核戦争への備えとの関連を検証するものである。研究着手の時点では、ABCC の行った専門分野における調査・研究や人道的活動の記録は存在

したが、核実験へ参加した米軍部隊に関する包括的研究は行われていなかった。また、ABCC の調査活動と米国の核実験や核戦争計画との関連に関する先行研究もほとんど存在しなかった。

2. 研究の目的

冷戦初期の核戦争に備えた米国の軍事活動に、どのような人々や組織が関与し、いかなる役割を果たしたのかを探るものである。研究の対象期間は、米国が大気圏核実験を行い、何十万人もの米国軍人が実験に関与した1946年～1963年とした。

3. 研究の方法

この研究は、広島（財）放射線影響研究所（旧 ABCC）、長崎、米国ネバダ核実験場、核実験博物館の口述史料館（ラスベガス）、全米科学財団資料室、国立公文書館（ワシントン DC）などで調査を行い、米国の核実験に関与した人々の口述記録や、ABCC および米軍の調査・研究・計画の記録を収集した。

4. 研究成果

この研究の主眼は、原爆傷害調査委員会（ABCC）の調査対象者であれ、ネバダやマーシャル諸島の核実験関係者であれ、いかなる段階においても米国の核兵器関連の計画に関与した場合、それは米国が核戦争に勝利するための戦略に組み込まれたことを意味することを明らかにすることである。ABCC の調査研究対象とされた被爆者には、調査目的は将来の放射線被害者の救済であると告げられ、実際にチェルノブイリ原発事故の際に利用されてはいるが、本来の ABCC の予算や活動は主として核戦争計画を推し進めることが目的であった。

本研究の主たる成果は以下のとおりである。

(1) 各地での資料収集や調査活動により、ABCC の調査活動と米国の核実験や核戦争計画との間に多くの関連づけが可能となった。特に ABCC による原爆被爆者の放射線被爆線量を正確に再評価する活動は、被爆線量と健康被害との相関関係を探るものであり、データの多くは、軍事目的で利用された。核戦争後を想定した米国の再建計画は、その一例である。また旧ソ連との戦争において、核兵器を使用し被爆した場合の米軍の戦闘継続能力を推定する目的にも利用された。

(2) ネバダ核実験場では、「プロジェクト・イチバン」と呼ばれる計画も存在した。ABCC の調査を補足する目的で、家屋の放射線遮蔽効果や被爆線量の測定を行った。その際、巨大な鉄塔にエレベータを設置し、広島での原爆投下の際の高度に原子炉の位置を合わせたり、多くの放射線測定機を備えた日本家屋を台車の上に建て、色々な想定のもとで、核実験場内で台車を移動して核実験を行った。「プロジェクト・イチバン」は2年間に及ぶもので、日本家屋を建てるなど、広島原爆

被害を再現した点で非常に入念なものであった。

(3) 戦場において致死量のガンマ線を浴びたが、放射能障害が出るには至っていない部隊をどうするかが米軍内で検討された事実が確認できた。司令官は、有事の場合これらの部隊を「決死隊」として利用するよう命令を受けた。ここでもまた、ABCC の被爆線量と健康被害に関する調査結果が応用されている。

(4) 米国において、広島や原爆被爆者がどのように伝えられているかも調査した結果、当時の広島は一都市としてではなく基地として、広島市民は軍人として描かれていた。ABCC は、米国が広島の被爆者の生活を立て直すため、善意をもって医療の手助けをしているというイメージを植え付ける主要な役割を果たしたと言える。1955年に義援金によって米国でケロイド治療を受けることができた「原爆乙女」が良い例で、設立初期の ABCC の良い印象も奏功し、「原爆乙女」の渡米は、子供たちをも傷つけた軍事的脅威ではなく、援助の手を差し伸べる温情に満ちた支援者や医療者という位置づけを米国に与える結果となった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計2件)

- ① ロバート・ジェイコブス, The Psychological Bomb: The Relationship of the American Social Scientists to Nuclear Weapons in the Early Cold War, *Peace & Change*, 査読有、35:3、2010年7月、pp. 434-63
- ② ロバート・ジェイコブス, Reconstructing the Perpetrator's Soul By Reconstructing the Victim's Body: The Portrayal of the "Hiroshima Maidens" by the Mainstream American Media, *Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific*, 査読有、24巻、2010年6月、電子ジャーナルのためページ数なし、<http://intersections.anu.edu.au/issue24/jacobs.htm>
- ③ ロバート・ジェイコブス, The Origins of the Dirty Bomb: The U.S. Military and Radiological Weapons, *Hiroshima Research News*, 査読無、10:3、2008年3月、p. 6

[学会発表] (計3件)

- ① ロバートジェイコブス, Project Ichiban: Completing the ABCC Dose

Reconstruction at the Nevada Test Site”、国際関係と科学技術研究会、2011年1月23日、東京工業大学

- ② ロバート・ジェイコブス、Architectures of Annihilation: The Logic of Building “Japanese Houses” at the Nevada Test Site、the Cold War Cultures Conference、2010年10月1日、テキサス大学（米国）
- ③ ロバート・ジェイコブス、Reconstructing the Perpetrator’s Soul By Reconstructing the Victim’s Body: The Hiroshima Maidens in the American Mind、Interrogating Trauma: Arts & Media Responses to Collective Suffering Conference、2008年12月3日、マードック大学（オーストラリア）

6. 研究組織

研究代表者

ロバート ジェイコブス (Robert Jacobs)
広島市立大学・広島平和研究所・准教授
研究者番号：60423969